



三栖閘門 1929(昭和4)年3月

## 疏水運河と宇治川との 舟運連絡を計る三栖閘門

伏見新堤の竣工後に、伏見市運河及び京都市疏水運河と宇治川との舟運連絡を計るもので、三栖洗堰下流、高瀬川合流口に新設されました。

この閘門の門扉は引上扉で、閘門の幅は扉室が8m、閘室が11m、閘門有効長は83mでした。

門扉室の構造は鉄筋コンクリート壁体で、下部はいずれもU字型暗渠を包蔵していました。

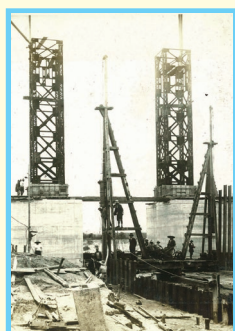
門扉の開閉は常時電力で、門扉と暗渠扉とも遠方操作方式を採用し、操作所内で運転するものとされ、一切の自動安全装置を具備していました。

三栖閘門の工事は、1926(大正15)年2月に着手され、1929(昭和4)年3月に完成しました。

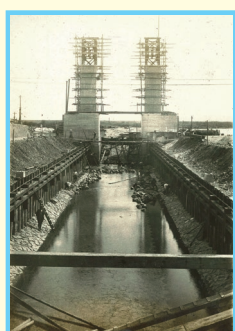
1926(大正15)年 着工

1929(昭和 4)年 完成

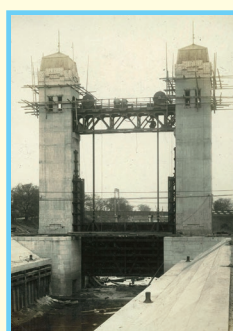
2007(平成19)年11月 近代産業遺産に認定(三栖閘門、旧操作室)



建設中の三栖閘門



建設中の三栖閘門



建設中の三栖閘門



現在2018(平成30)年の三栖閘門